



教職員のための
防災基礎講座 ③

学校ですべてできる防災の取り組み

今回は、避難訓練以外に学校ですべてできる防災の取り組みについて紹介します。

保健委員会での防災活動

学校の委員会活動のひとつ、保健委員会では、健康や安全に関する活動を行っています。ですが、健康づくりや交通安全・防犯という活動に比べて、防災への取り組みはまだ少ないのではないのでしょうか。そこで防災をテーマにポスターや学校だよりを作成したり、委員会発表を行うなどの活動を取り入れたりする活動からはじめてみませんか。

過去に大きな災害が起きた日には、昼休みの校内放送を使って、その出来事を伝えるという活動もオススメです。過去の災害の風化防止にも繋がりますし、地域で起きた過去の災害を取り上げれば、子どもたちに防災をより身近なこととして感じてもらえる効果があります。

■防災に関する日	
1月17日	・防災ボランティアの日 阪神・淡路大震災(1995年)
3月11日	東日本大震災(2011年)
9月1日	・防災の日 関東大震災(1923年)
11月5日	・津波防災の日 ・世界津波の日 安政の南海地震(1854年)

防災クラブ(部)を作ろう

学校で子どもたちの防災クラブや防災部を作り、防災活動に取り組む動きがあります。東京都荒川区では、2015年4月に区内のすべての中学校(10校)に、防災部を作りました。将来の防災活動や地域活動の中核となるリーダーを育てることを目的としており、D級コンプやAEDの操作訓練、地域の防災訓練への積極的な参加などの活動を通じて、技量の向上を図っています。

また、地域の高齢者の家を訪ね、学校だよりや行事案内などを届けて交流を重ねる『絆ネットワーク活動』も行っています。この活動は、災害時に支援が必要となる高齢者の把握に加え、顔見知りになることで住民の不安を解消することもできる、大変優れた取り組みといえます。

防災自由研究を夏休みの課題に

夏休みの宿題といえば自由研究。防災の自由研究は、子どもと保護者が一緒に取り組めるテーマとして最適なもののひとつです。定番の防災



防災自由研究発表の様子

そのほか2017年10月、JICA(国際協力機構)主催の防災イベントでは、防災研修に来た海外の行政関係者の前で、生徒が防災自由研究を発表するという機会もありました。

防災アイテムとしてスマホの活用

活動の場が大きく広がりを見せています。きっかけとして、学校やクラス単位で防災に関する各種コンクール、たとえば『防災ポスターコンクール』『ぼうさい探検隊マップコンクール』などに応募してみるのはいかがでしょうか。

こうしたコンクールへの応募は、子どもたちの活動の励みともなります。思わぬ力が発揮されるかもしれません。ぜひ、挑戦してみてください。

学校では、スマートフォン(スマホ)の扱いについて意見が分かれるところですが、最後に、防災に役立つスマホの活用方法について紹介したいと思います。

学校にとって、登下校時に災害が発生した場合、子どもたちの安否確認が大きな課題です。通学時間の長い児童・生徒は、安否確認が難しいという問題があります。そこで、スマホの活用です。

LINEやTwitterなど、子どもたち

■防災アプリの例

<input type="checkbox"/> 災害情報	 Yahoo!防災速報 (Android / iPhone 対応) 地震や豪雨など災害・避難情報などを速報する
<input type="checkbox"/> ラジオ	 NHK ラジオらじる★らじる (Android / iPhone 対応) NHK ラジオ第1、第2、NHK-FM 放送を聞ける
	 radiko.jp (Android / iPhone 対応) 地域のNHK・民放ラジオ・FM 放送を聞ける
<input type="checkbox"/> ホイッスル	 SOS ホイッスル (Androidのみ対応) ホイッスルを鳴らしてSOSを知らせる
<input type="checkbox"/> 安否確認	 LINE (Android / iPhone 対応) 無料でチャットや通話ができるアプリ
<input type="checkbox"/> 交通情報	 トラフィック情報 (Android / iPhone 対応) 道路、鉄道、航空機の交通情報を確認できる
<input type="checkbox"/> 帰宅困難者支援	 Waaaaay! (うえ〜い!) (Android / iPhone 対応) 目的地まで矢印と距離でガイドするナビアプリ

が普段から使っているアプリは、災害時の安否の確認にも利用できます。災害が発生して不安になっている子どもたちにとっても、誰かと繋がっていることで安心感を得ることができます。

防災では、大きな地震で家が倒壊するなど閉じ込められた場合に備え、枕元に懐中電灯やホイッスルを置くことが推奨されています。自分の居場所を光や音を使って知らせることができずからです。しかし、実際に、懐中電灯やホイッスルを置いている人は少ないというのが現状です。

その点、スマホは、「常に身近」にあり、寝ているときでも枕元に置いておく人が多いので、防災アイテムとしてうってつけといえます。ライト機能、音の出るアプリをはじめ、災害情報の通知やラジオなど、さまざまな防災に備えられるアプリがあります。どれが役立つか、いろいろ試してみましよう。スマホが「防災アイテム」となることを学校でも教えていただければと思います。

多様な活動の場や機会を数多く与えることで、子どもたちの防災意識を高めましよう。



笠間正弘
一般財団法人
防災教育推進協会理事
1961年宮城県生まれ。子どもたちが自ら考え行動する真の「防災力」を育むため、「ジュニア防災検定」や「防災寺子屋」などの防災教育事業を行っている。著書「わたしたちの防災」